

第8回 生薬ソムリエ（初級）試験

【解答の部】

問（1）次の生薬の中で、原植物が裸子植物であるのはどれか。

- ① 甘草
- ② 薏苡仁
- ③ 麻黄
- ④ 山茱萸
- ⑤ 龍眼肉

解答③

解説：

- ① 甘草 カンゾウは被子植物-双子葉植物
- ② 薏苡仁 ハトムギは被子植物-単子葉植物
- ③ 麻黄 マオウはマツ、イチイ、イチョウなどと同じ裸子植物
- ④ 山茱萸 サンシュユは被子植物-双子葉植物
- ⑤ 龍眼肉 リュウガンは被子植物-双子葉植物

問（2）リンドウ科に属する植物に由来する生薬はどれか。

- ① アカメガシワ
- ② アロエ
- ③ ゲンノショウコ
- ④ ゲンチアナ
- ⑤ ジギタリス

解答④

解説：

- ① アカメガシワ トウダイグサ科 (Euphorbiaceae)
- ② アロエ ユリ科 (Liliaceae)
- ③ ゲンノショウコ フウロソウ科 (Geraniaceae)
- ④ ゲンチアナ リンドウ科 (Gentianaceae)
- ⑤ ジギタリス ゴマノハグサ科 (Scrophulariaceae)

問（3）次の生薬の中で、原植物の葉が単葉であるのはどれか。

- ① 甘草
- ② 桂皮

- ③ 威霊仙
- ④ 升麻
- ⑤ 龍眼肉

解答②

解説：

- ① 甘草 原植物のウラルカンゾウは羽状複葉
- ② 桂皮
- ③ 威霊仙 原植物のサキシマボタンヅルは羽状複葉
- ④ 升麻 原植物のサラシナショウマは羽状複葉
- ⑤ 龍眼肉 原植物のリュウガンは羽状複葉

問（４）次の生薬の中で、検鏡で導管が認められるものはどれか。

- ① コンズランゴ
- ② 桂皮
- ③ 牡丹皮
- ④ 桑白皮
- ⑤ 半夏

解答⑤

解説：導管は木部(形成層の内側)に見られる。樹皮や根皮は形成層の外側の組織で、導管は見られない。それぞれ薬用部位として、半夏は塊茎だが、それ以外は樹皮と根皮である。

問（５）組織中の粘液を染色することを目的に使用する試薬はどれか。

- ① フロログルシン
- ② スダンⅡ
- ③ スダンⅢ
- ④ メチレンブルー
- ⑤ 包水クロラール

解答④

解説：

- ① フロログルシン リグニンの染色
- ② スダンⅡ 脂肪の染色
- ③ スダンⅢ 脂肪の染色
- ④ メチレンブルー
- ⑤ 包水クロラール 透明化試薬

問（6）次の薬用植物の中で、日本に自生するものはどれか。

- ① *Clematis chinensis* Osbeck
- ② *Gentiana manshurica* Kitagawa
- ③ *Astragalus mongholicus* Bunge
- ④ *Scutellaria baicalensis* Georgi
- ⑤ *Polygonatum sibiricum* Redoute

解答

解説：①

- ① *Clematis chinensis* Osbeck
サキシマボタンヅル（生薬イレイセン） 沖縄本島などに自生する
- ② *Gentiana manshurica* Kitagawa
トウリンドウ（竜胆）。*リンドウ、エゾリンドウは日本に自生する。
- ③ *Astragalus mongholicus* Bunge
キバナオウギ（黄耆）
- ④ *Scutellaria baicalensis* Georgi
コガネバナ（黄芩）
- ⑤ *Polygonatum sibiricum* Redoute
カギクルマバナナルコユリ（黄精）

問（7）ウイキョウに関して正しい記載はどれか。

- ① 花は白い
- ② 果実には芳香があるが、葉にはない。
- ③ 日局ウイキョウの原植物はセリ科で2種ある。
- ④ 葉は糸状に分裂し対生する。
- ⑤ 原産地は地中海沿岸である。

解答⑤

解説：

- ① 花は黄色い
- ② 植物全体に独特な香りがある。
- ③ *Foeniculum vulgare* Miller 1種である。
- ④ 葉は互生、2回羽状複葉で裂片が深裂するために葉身は糸状
- ⑤ 原産地は地中海沿岸である。

問（8）原植物が食用のアスパラガスと同じ仲間の生薬はどれか

- ① バクモンドウ
- ② テンモンドウ
- ③ ゴシュユ
- ④ サンシュユ
- ⑤ サンショウ

解答②

解説：アスパラガス ユリ科クサスギカズラ属 *Asparagus*

- ① バクモンドウ ユリ科ジャノヒゲ属
- ② テンモンドウ ユリ科クサスギカズラ属
- ③ ゴシュユ ミカン科ゴシュユ属
- ④ サンシュユ ミズキ科ミズキ属
- ⑤ サンショウ ミカン科サンショウ属

問（9）ナンテン実は咳止めに利用される。赤南天よりも白南天が好まれる理由は何か。

- ① 果実が大きい。
- ② 果肉が厚い。
- ③ 「白は補い、赤は瀉す」の理論に基づく。
- ④ 味がまるやかで口にしやすい。
- ⑤ 味が渋く、薬効的に優れる。

解答②

解説：『原色和漢薬図鑑』（難波恒雄著、S55、保育社）

メギ科のナンテン *Nandina domestica* THUNB. の成熟果実を乾燥したもの。市場では「白南天」と「赤南天」があり、白実を生じるシロナンテン（シロミナンテン）*N. domestica* THUNB. var. *leucocarpa* MAKINO の果実が賞用される。それゆえ赤実のナンテンの果実を漂白したものが多く出回っているが、一般にシロナンテンの果実の果肉はナンテンのそれより厚く、比較的簡単に鑑別できる。

問（10）原植物の花が淡紫色である生薬はどれか。

- ① シツリシ
- ② クコシ
- ③ ウコン
- ④ シコン
- ⑤ トコン

解答②

解説：

- ① シツリシ 黄色
- ② クコシ
- ③ ウコン 淡黄色
- ④ シコン 白色
- ⑤ トコン 白色

問 (11) 原産地がヒマラヤ山麓とされる薬用植物はどれか。

- ① *Glycyrrhiza uralensis*
- ② *Citrus aurantium* var. *daidai*
- ③ *Syzygium aromaticum*
- ④ *Jateorhiza columba*
- ⑤ *Rheum palmatum*

解答②

解説：

- ① *Glycyrrhiza uralensis* ウラルカンゾウ 中国東北部
- ② *Citrus aurantium* var. *daidai* ダイダイ
- ③ *Syzygium aromaticum* クローブ インドネシア モルッカ諸島
- ④ *Jateorhiza columba* コロンボ モザンビーク、マダガスカル
- ⑤ *Rheum palmatum* ショウヨウダイオウ 中国（高山地）

問 (12) *Curcumae Rhizoma* の原植物は次のうちどれか。

- ① ショウガ
- ② リョウキョウ
- ③ ガジュツ
- ④ ハルウコン
- ⑤ ウコン

解答③

解説：

- ① ショウガ ZINGIBERIS RHIZOMA
- ② リョウキョウ ALPINIAE OFFICINARI RHIZOMA
- ③ ガジュツ CURCUMAE RHIZOMA

- ④ ハルウコン の基原はキョウオウ *Curcuma aromatica* Salisb. (ただし、Kew の The Plant List によると、*C. wenyujin* は *C. aromatica* の Synonym とされていることから、実際は同じ基原と考えると良いかもしれない) である。
- ⑤ ウコン CURCUMAE LONGAE RHIZOMA

問 (13) 日本薬局方における「生薬総則」における記載内容の概要を記した。間違っているものはどれか。

- ① 生薬は、別に規定するもののほか、乾燥品を用いる。乾燥は、通例、60℃以下で行う。
- ② 生薬は、別に規定するもののほか、湿気及び虫害などを避けて保存する。虫害を防ぐため、適当な薫蒸剤を加えて保存することができる。
- ③ 生薬に用いる容器は、別に規定するもののほか、密閉容器とする。
- ④ 生薬の基原は適否の判定基準とする。生薬の基原として、「その他同属植物」、「その他近縁植物」などと記載するものは、通例、同様の成分、薬効を有する生薬として用いられる原植物をいう。
- ⑤ 生薬の性状において、色、におい及び味は適否の判定基準としない。

解答⑤

解説：

- ⑤ 生薬の性状の項は、その生薬の代表的な原植物又は原動物に基づく生薬について、鏡検時の数値を含めその判断基準となる特徴的な要素を記載したものである。そのうち、色、におい及び溶解性については、においを適否の判定基準とすることを除き、通則の規定を準用する。また、味は、適否の判断基準とする。

問 (14) 生薬のケイヒとニッケイについて、正しい記載はどれか。

- ① 日局では薬効成分の cinnamaldehyde の含有率の下限値を規定している。
- ② 桂枝湯には *Cinnamomum cassia* の枝を配合する。
- ③ 中国の生薬市場で肉桂を購入した。桂皮とは異なるので、使うべきではない。
- ④ 日本のニッケイは *Cinnamomum sieboldii* である。
- ⑤ 桂皮のことをシナモンと称しても問題ない。

解答④

解説：

- ① 薬効成分の指定はない。
- ② 枝とは限らない。樹皮又は周皮の一部を除いて乾燥したもの。
- ③ 肉桂は中国における生薬名。
- ④ 日本のニッケイは *Cinnamomum sieboldii* である。
- ⑤ 桂皮はカシアと呼ばれシナモンと区別される。シナモンはセイロンニッケイ *Cinnamomum verum* である。

問 (15) 医薬品の芍薬について説明した以下の文章で正しいものはどれか。

- ① *Paeonia lactiflora* の根に由来し、局方試験に合格したものであれば、園芸用シャクヤクであっても日局シャクヤクとして使用して問題ない。
- ② 日本では古来、皮を去り、湯通しした真芍が用いられてきた。したがって、皮付きの生干芍薬は日局シャクヤクとして使用できない。
- ③ 中国の生薬市場には白芍と赤芍がある。中国で購入した白芍はそのまま日局シャクヤクとして使用できるが、赤芍は使用できない。
- ④ 日本の真芍と中国の白芍は同じ生薬と考えてよい。
- ⑤ *Paeonia lactiflora* は日本にも寒冷地に野生する。

解答① ※④も正しい

解説：

- ① *Paeonia lactiflora* であれば薬用、園芸用は問わない。
- ② 中国では古来、皮を去り、湯通しした真芍が用いられてきた。皮付きの生干芍薬は日局シャクヤクとして使用できる。
- ③ 赤芍は使用できない。⇒赤芍は一般的に灰分が高く局方不適となる傾向にあるが、近年低いものも流通している。基原植物が *Paeonia lactiflora* であり、灰分が適合すれば日局シャクヤクとして使用できる。
- ④ 中国では一般的に皮去り湯通ししたものを白芍と称している。それを日本では真芍を称している。
- ⑤ 日本には自生しない

問 (16) 次の漢方処方でうるち米が配合されるものはどれか

- ① 麦門冬湯
- ② 葛根湯
- ③ 小柴胡湯
- ④ 甘麦大棗湯
- ⑤ 薏苡仁湯

解答①

解説：

- ① 麦門冬湯 麦門冬、半夏、人参、大棗、甘草、粳米
- ② 葛根湯 桂皮、芍薬、生姜、大棗、甘草、葛根、麻黄
- ③ 小柴胡湯 柴胡、黄芩、半夏、人参、大棗、甘草、生姜
- ④ 甘麦大棗湯 甘草、小麦、大棗
- ⑤ 薏苡仁湯 薏苡仁、蒼朮（白朮も可）、当帰、芍薬、麻黄、桂皮、甘草

問 (17) 次の漢方処方の中で、サイコが配合されているものはどれか。

- ① 当帰芍薬散
- ② 補中益気湯
- ③ 十全大補湯
- ④ 桂枝湯
- ⑤ 半夏厚朴湯

解答②

解説：

- ① 当帰芍薬散 当帰、芍薬、茯苓、沢瀉、川芎、白朮
- ② 補中益気湯 人参、白朮または蒼朮、黄耆、当帰、陳皮、大棗、柴胡、甘草、生姜、升麻
- ③ 十全大補湯 人参、黄耆、白朮または蒼朮、茯苓、当帰、芍薬、地黄、川芎、桂皮、甘草
- ④ 桂枝湯 桂皮、芍薬、生姜、大棗、甘草
- ⑤ 半夏厚朴湯 半夏、茯苓、厚朴、蘇葉、生姜

問 (18) ショウキョウとカンキョウについて述べた文章で間違いがあるのはどれか

- ① ショウキョウとカンキョウはともにショウガの根茎に由来するが、新陳代謝機能を賦活して体を温める作用があるものはカンキョウである。
- ② 乾燥品にショウキョウと記載すれば医薬品、ショウガと記載すれば食品である。
- ③ ショウキョウは[6]-shogaol の含量がカンキョウより多い。
- ④ 人参湯に配合される生薬はカンキョウである。
- ⑤ カンキョウはショウガの根茎を湯通し又は蒸してから乾燥したものである。

解答③

解説：

- ① ショウキョウとカンキョウはともにショウガの根茎に由来するが、新陳代謝機能を賦活して体を温める作用があるものはカンキョウである。
- ② 乾燥品にショウキョウと記載すれば医薬品、ショウガと記載すれば食品である。
- ③ ショウキョウは[6]-gingerol の含量がカンキョウより多い。
カンキョウは[6]-shogaol の含量がショウキョウより多い。
- ④ 人参湯は乾姜に限るとされ、茯苓沢瀉湯は生姜に限るとされる。乾姜および生姜の両方を配合するのは生姜瀉心湯、半夏白朮天麻湯。
- ⑤ カンキョウはショウガの根茎を湯通し又は蒸してから乾燥したものである。

問 (19) 乾地黄と熟地黄について記載した文章で正しいものはどれか。

- ① 熟地黄はイリドイド成分が多いため、滋養強壮作用が強い。

- ② 日本薬局方では糖の種類を確認することにより、乾地黄と熟地黄を分けている。
- ③ 乾地黄と熟地黄は元来、原植物が異なっていた。
- ④ 熟地黄はカイケジオウの新鮮な根を湯通しして乾燥したものである。
- ⑤ 胃内停水のある人には乾地黄より熟地黄を用いた方が良い。

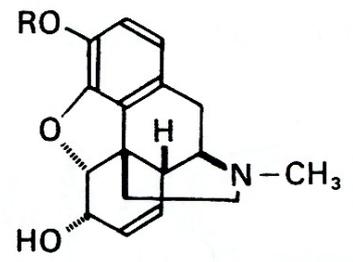
解答②

解説：

- ① 熟地黄はイリドイド配糖体の含有量が減少する。生地黄はイリドイド配糖体の含有量が多い。熟地黄はイリドイド成分が少ない。
- ② 日本薬局方ジオウでは、根を乾地黄、蒸したものを熟地黄としている。確認試験では乾地黄はスタキオース、熟地黄はマンニトリオースを確認している。
- ③ 乾地黄、熟地黄は加工方法の違いであり、原植物は基本的に同じものである。
- ④ 熟地黄は、乾地黄を蒸して乾燥したものである。
- ⑤ 胃内停水のある人には熟地黄より乾地黄を用いた方が良い。

問 (20) 図に示すような化合物に類する成分を含有する生薬はどれか。

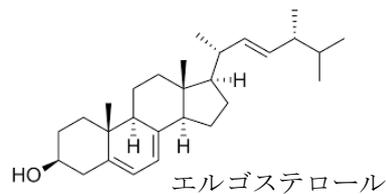
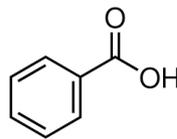
- ① BENZOINUM
- ② TRAGACANTHA
- ③ POLYPORUS
- ⑤ OPIUM
- ⑤ AGAR



解答④

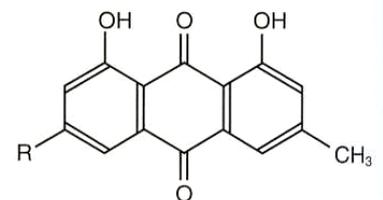
解説：

- ② BENZOINUM アンソッコウ 安息香酸
- ② TRAGACANTHA トラガント 多糖類
- ③ POLYPORUS チョレイ エルゴステロール
- ④ OPIUM アヘン モルヒネ
- ⑤ AGAR カンテン 多糖類 (アガロース)



問 (21) 図に示すような化合物に類する成分を含有しない生薬はどれか。

- ① アロエ
- ② ケツメイシ
- ③ ダイオウ
- ③ ケンゴシ
- ⑥ センナ



解答④

解説：図はアントラキノン誘導体 瀉下作用

- ① アロエ
- ② ケツメイシ
- ③ ダイオウ
- ④ ケンゴシ 樹脂配糖体 瀉下作用
- ⑤ センナ

問 (22) 写真に示す植物に由来する生薬の説明として正しいものはどれか。

- ① 本品は板状又は半管状の皮片で、外面は帯緑灰色～帯褐灰色で、灰白色～褐色の皮目が群をなし、縦しま状の模様として認められる。折りやすく、折面はやや繊維性である。
- ② 本品は細長い棒状を呈し、長さ 30～40 cm、径約 0.5 cm である。外面は暗褐色で、内部には多数の種子がある。果皮は薄く、折れやすい。
- ③ 本品は双懸果で長円柱形を呈し、長さ 3.5～8mm、幅 1～2.5 mm である。外面は灰黄緑色～灰黄色で、互いに密接する 2 個の分果の各々には 5 本の隆起線がある。
- ④ 本品は縮んだ葉及びその破片からなり、しばしば細い茎を含む。葉の上面は暗緑色を呈し、下面は灰白色の綿毛を密生する。
- ⑤ 本品はかぎ状のとげ又はとげが対生若しくは単生する短い茎からなる。とげは長さ 1～4 cm で、湾曲して先端はとがり、外面は赤褐色～暗褐色、又は灰褐色を呈し、毛を付けるものもある。



解答②

解説：写真はキササゲ

- ① 赤芽柏 アカメガシワ
- ② キササゲ
- ③ 茴香 ウイキョウ
- ④ 艾葉 ヨモギ
- ⑤ 釣藤鈎 カギカズラ

問 (23) 日本薬局方ではオウレンを「本品はオウレン *Coptis japonica* Makino、*Coptis chinensis* Franchet、*Coptis deltoidea* C. Y. Cheng et Hsiao 又は *Coptis teeta* Wallich (Ranunculaceae) の根をほとんど除いた根茎である。」と規定しているが、この解釈として間違ったものはどれか。

- ① 日本薬局方の学名表記とは異なるが分類学的に同一あるいは同一とみなされることがあり、キクバオウレン *Coptis japonica* Makino var. *anemonifolia* H. Ohba はこれに該当する。
- ② 日局オウレンの原植物は複数種あり *Coptis deltoidea* C. Y. Cheng et Hsiao もその一種である。

- ③ 日本薬局方の学名表記は分類学的に用いられている学名表記と異なる場合があり、*Coptis chinensis* Franchet は *Coptis chinensis* Fr. と同じ種を指している。
- ④ セリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *dissecta* (Yatabe) Nakai は、原植物として規定されていないので日局品として扱われない植物種である。
- ⑤ *Coptis teeta* Wallich は東ヒマラヤに産し、雲南黄連の原植物である。

解答④

解説：

- ④ 基原植物のオウレン *Coptis japonica* は、この変種のキクバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *anemonifolia* (Siebold et Zucc.) H. Ohba、セリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *major* (Miq.) Satake、コセリバオウレン *Coptis japonica* (Thunb.) Makino var. *japonica* を含んでいる。
C. omeiensis (峨眉野連) , *C. quinquesecta* は基原植物として用いられない。

問 (24) トウキの説明として正しい記載はどれか。

- ① 日本では 17 世紀中頃から栽培化され始め、日本各地でその土地の野生種が採集また栽培されたため少しずつ品質が異なっていたようで、産地により、常陸当帰、仙台当帰、越後当帰、伊吹当帰などと呼ばれていた。
- ② 大和当帰はブランド化され、許可なく家庭で栽培することは禁じられている。
- ③ 中国のトウキの原植物はカラトウキ *Angelica sinensis* (Oliv.) Diels とされるが、日本のトウキ *Angelica actiloba* Kitagawa と非常に似ているので同一種とみなされている。
- ④ 古来良質品と云われてきた「馬尾当帰」の形状に近いものとして北海当帰が知られている。
- ⑤ 生薬としての大和当帰は奈良県庁がブランド化したものである。

解答①

解説：

- ② 禁じられていない。
- ③ 唐当帰 (*A. sinensis* 中国産当帰) および韓当帰 (*A. gigas* 韓国産当帰)、アングリカ根 (*A. archangelica* ヨーロッパ産) は基原植物が異なる。
- ④ 大和当帰が古来良質品と云われてきた「馬尾当帰」の形状に近いとされてきた。伊吹当帰を馬尾当帰とする文献もある。
- ⑤ 大和当帰は『本草辨疑』遠藤元理 (1681) に「今薬家ノ者ハ山城、大和ニ多ク之ヲ作り出ス」、『用薬須知』松岡恕庵 (1726) に「和ヲ好トス、大和当帰越後当帰ノ二種アリ 共ニ眞ナリ、大和ノ当帰ハ綱目ニ謂所馬尾当帰なり 滋潤勝レリ最上トス」など江戸時代からである。

問 (25) ブシの説明として正しいものはどれか。

- ① ブシはアコニチンに代表される有毒アルカロイドを含有しているが、一般の薬剤と同様に特に使用に注意が必要というわけではない。
- ② 日本薬局方ではハナトリカブト *Aconitum carmichaeli* Debeaux のみを原植物としている
- ③ ブシは減毒を目的に修治（加工調製）されたものがあり、日本薬局方では高熱蒸気処理で加工調製したもののみが定められている。
- ④ 日本薬局方では「ブシ1」、「ブシ2」、「ブシ3」と区別しているが、これは使用する処方中への配合量により区別されたものである。
- ⑤ ブシは鎮痛、新陳代謝賦活、利尿、強心などを目的に、八味地黄丸を始め牛車腎気丸、真武湯、大防風湯などの処方にも配合される。

解答⑤

解説：

- ① 使用に注意が必要。
- ② ハナトリカブト *A. carmichaeli* Debeaux、オクトリカブト *A. japonicum* Thunberg
- ③④ 日本薬局方では
「ブシ1（加工ブシ） 高圧蒸気処理加工」、
「ブシ2（炮附子） NaCl または CaCl₂ の水溶液に浸漬した後、加熱又は高圧蒸気処理により加工」、
「ブシ3（塩附子） NaCl 水溶液に浸漬後、石灰を塗布加工したもの」
と加工方法により区別している。総アルカロイド含量が異なる。

問（26）下の【 】内は葛根湯の構成生薬を英名で表したものであるが、不足している生薬が1種ある。不足している生薬はどれか。

【Pueraria Root、Ephedra Herb、Cinnamon Bark、Jujube、Glycyrrhiza、Ginger】

- ① Bupleurum Root
- ② Processed Ginger
- ③ Peony Root
- ④ Rhubarb
- ⑤ Pinellia Tuber

解答③

解説：

- ① 柴胡
- ② 乾姜
- ③ 芍薬
- ④ 大黄
- ⑤ 半夏

問 (27) 生薬ニンジンの説明として正しいものはどれか。

- ① 『神農本草経』の上品に収載され、古来補薬として珍重されおり、陶弘景は高麗のものが最も品質が良いとしている。
- ② 人参は日本では有名で高価な生薬で、江戸時代には病身の親のために身売りしてまで入手したという話があるが、中国ではそれほど高い評価を受けていない。
- ③ チクセツニンジンの中にはしばしば直根人参が生じ、このものは日局「人参」として流通することがある。
- ④ ニンジンの名称に朝鮮人参、白参、雲州人参、西洋人参、生干人参、御種人参、田七人参などがあるが、これらはすべて *Panax ginseng* C. A. Meyer に由来するものである。
- ⑤ ニンジン蒸したものにコウジンがあるが、日本薬局方ではニンジンとして同一品目の中で取り扱われている。

解なし ※すべて誤り

解説：

- ① 陶弘景は「百済産のものが重用されている、上党郡のものに比べて気味が薄い。次には高麗産のものが用いられる。百済のものに及ばない」といっているので誤り。
- ② 中国で *P. quinquefolium* は高値で取引されるが、*P. ginseng* と比較してどうかは知りません。中国でも野生品などは高値で取引されており評価を受けている。
- ③ チクセツニンジンの直根人参は、日局ニンジンには基原植物が異なるため適合しない。また部位的にチクセツニンジンにも適合しない。直根人参（玉人参）はトチバニンジンの幼植物に見られるが、貯蔵根としての役目が終われば、枯れて消失する。
- ④ 西洋人参 *P. quinquefolium*、田七人参 *P. notoginseng*
- ⑤ 別もの 日本薬局方コウジンとして収載している。

問 (28) カンゾウの説明として誤った記載はどれか

- ① カンゾウが引き起こす副作用の1つに「偽アルドステロン症」が知られており、服用者の感受性や服用量には注意を払う必要がある。
- ② 『神農本草経』の上品に収載され、解毒や諸薬の調和など多数の効を有し、「国老（皇帝の師の意味）」とも称される重要な生薬である。
- ③ カンゾウの原植物である *Glycyrrhiza* 属植物は日本に自生せず、国内の需要は、これまで輸入に頼ってきたが、江戸時代には、甲州上於曾村（現在の山梨県塩山市）でカンゾウが栽培されており、幕府は国産品生薬の奨励もあり保護、栽培の拡大を行った。
- ④ カンゾウの主産国は中国で、環境保護、資源保護の観点から野生品の採取は制限され、輸出は前もって中国企業に輸出数量が割り当てる許認可制をとって管理を行っている。
- ⑤ 日本薬局方ではカンゾウを *Glycyrrhiza uralensis* Fischer、*Glycyrrhiza glabra* Linné 又は *Glycyrrhiza inflata* Batalin (*Leguminosae*)の根及びストロンで、ときには周皮を除いたもの（皮取りカンゾウ）と規定している。

解答⑤

解説：

⑤ *Glycyrrhiza uralensis* Fischer、*Glycyrrhiza glabra* Linné のみ。

問 (29) 次に示す生薬と薬用部位のうち、正しい組み合わせはどれか。

- ① 黄連／根
- ② 知母／鱗茎
- ③ 貝母／鱗茎
- ④ 半夏／根茎
- ⑤ 黄精／鱗茎

解答③

解説：

- ① 黄連／根茎 オウレン
- ② 知母／根茎 ハナスゲ
- ③ 貝母／鱗茎 アミガサユリ
- ④ 半夏／塊茎 カラスビシャク
- ⑤ 黄精／根茎 ナルコユリ

問 (30) 次の生薬のうち、バラ科植物由来の生薬はどれか。

- ① マシニン
- ② トウニン
- ③ サンソウニン
- ④ ヨクイニン
- ⑤ ケツメイシ

解答②

解説：

- ① マシニン アサ科 (Moraceae)
- ② トウニン バラ科 (Rosaceae)、キョウニンもバラ科
- ③ サンソウニン クロウメモドキ科 (Rhamnaceae)
- ④ ヨクイニン イネ科 (Gramineae)
- ⑤ ケツメイシ マメ科 (Leguminosae)

問 (31) マオウの説明として誤った内容はどれか。

- ① マオウは六陳（古いものが良質品とされる）生薬の一つに数えられ、味の渋いものが良品質とされている。
- ② 実際に流通しているマオウは主に *E. sinica*、一部 *E. intermedia* に由来するもので、これらはアジアに広く分布する雌雄異株の小低木である。
- ③ マオウは葛根湯、小青竜湯、麻黄湯、防風通聖散、麻杏甘石湯などの多くの漢方処方に配合され『傷寒論』（古代中国の後漢末から三国時代）の時代から利用されてきた。
- ④ 日本薬局方ではマオウ EPHEDRAE HERBA を *Ephedra sinica* Stapf、*E. intermedia* Schrenk et C. A. Meyer 又は *E. equisetina* Bunge (*Ephedraceae*) の全草であると規定している。
- ⑤ マオウは主として中国からの輸入品に 100%依存しているが、最近では国内自給生産に向けた研究が行われている。

解答④

解説：

- ④ 全草ではなく地上茎

問 (32) 日本薬局方では生薬の適否の判定基準と判断基準について規定しているが、下表でそれぞれの項目が正しい組み合わせの番号はどれか

	基原	色	におい	味	大きさ	鏡検時の数値
①	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準	判定基準
②	判定基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準	判断基準
③	判定基準	判断基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準
④	判断基準	判断基準	判定基準	判定基準	判断基準	判断基準
⑤	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準	判断基準

解答③

解説：

判定基準と判断基準の違い

判定基準は、局方適合のための必須規格であり、これに適合しないものは、即、日局不適となる。

基原、含量規定、におい、味、確認試験、純度試験などが該当する。

判断基準は、日局適否の判断材料とする規格であり、生薬の性状の項に記載された形態学的特徴や大きさを示す数値などが該当する。

問 (33) 生薬の味とラテン名の一組で間違った組み合わせのものはどれか次の中から選べ。

- ① 苦い : COPTIDIS RHIZOMA, SOPHORAE RADIX
- ② 甘い : HYDRANGEAE DULCIS FOLIUM, GLYCYRRHIZAE RADIX
- ③ 辛い : ZINGIBERIS RHIZOMA, CAPSICI FRUCTUS

- ④ 酸味 : SCHISANDRAE FRUCTUS, SWERTIAE HERBA
- ⑤ しびれ (麻痺) : ASIASARI RADIX, EPHEDRAE HERBA

解答④

解説 :

- ① 苦い : COPTIDIS RHIZOMA 黄蓮, SOPHORAE RADIX 苦参
- ② 甘い : HYDRANGEAE DULCIS FOLIUM 甘茶, GLYCYRRHIZAE RADIX 甘草
- ③ 辛い : ZINGIBERIS RHIZOMA 生姜, CAPSICI FRUCTUS 蕃椒
- ④ 酸味 : SCHISANDRAE FRUCTUS 五味子, SWERTIAE HERBA 当薬 (苦味)
- ⑤ しびれ (麻痺) : ASIASARI RADIX 細辛, EPHEDRAE HERBA 麻黄

問 (34) 次の生薬のうち、下剤として用いられるのはどれか。

- ① 五味子
- ② 枸杞子
- ③ 牽牛子
- ④ 山査子
- ⑤ 山梔子

解答③

解説 :

- ③ 牽牛子 樹脂配糖体 フェルビチン 瀉下、利尿

問 (35) 次の生薬のうち、ユリ科植物に由来しないものはどれか。

- ① チモ
- ② バクモンドウ
- ③ テンモンドウ
- ④ ハンゲ
- ⑤ ビャクゴウ

解答④

解説 :

- ④ ハンゲはサトイモ科

問 (36) 次のうち、通例、湯通しするものはどれか

- ① Coptis Rhizome
- ② Corydalis Tuber
- ③ Astragalus Root

- ④ Pueraria Root
- ⑤ Bupleurum Root

解答②

解説：

- ① Coptis Rhizome 黄蓮 泥土を除去して1～2日干し、ヒゲ根の残りを火で焼いた後、磨きにか
け再び日干しする。
- ② Corydalis Tuber 延胡索 地上部およびヒゲ根を除去し、泥土を洗いおとし、沸騰水中につけ
た後、日干しする。
- ③ Astragalus Root 黄耆 水洗し陽乾する
- ④ Pueraria Root 葛根 コルク皮をはいで縦割りにし（板葛根）、または約5～8mm立方のサ
イコロ形に切って（角葛根）乾燥する。
- ⑤ Bupleurum Root 柴胡 秋に掘り起こし水洗して乾燥する。

問（37）日本薬局方の基原に「種間雑種」の記載があるものはどれか。

- ① センコツ
- ② チョウトウコウ
- ③ オウバク
- ④ インヨウカク
- ⑤ サイシン

解答①

解説：

<http://www.nihs.go.jp/kanren/iyaku/20220920-dpp.pdf>

日局収載生薬で種間雑種の規定がある品目

アロエ、ソウジュツ、ダイオウ、モクツウ、センコツ

問（38）次の生薬の中で、原植物がシソ科ではないものはどれか。

- ① PRUNELLAE SPICA
- ② POLYGALAE RADIX
- ③ SCHIZONEPETAE SPICA
- ④ PERILLAE HERBA
- ⑤ SCUTELLARIAE RADIX

解答②

解説：

- ① PRUNELLAE SPICA カゴソウ、花穂

- ② POLYGALAE RADIX ヒメハギ科 オンジ、根または根皮
- ③ SCHIZONEPETAE SPICA ケイガイ、花穂
- ④ PERILLAE HERBA ソヨウ、葉及び枝先
- ⑤ SCUTELLARIAE RADIX オウゴン、周皮を除いた根

問 (39) 次の薬用植物の中で、他の4種と花の色が異なるものはどれか。

- ① *Foeniculum vulgare* Miller
- ② *Lithospermum erythrorhizon* Siebold et Zuccarini
- ③ *Magnolia heptapeta* Dandy
- ④ *Schisandra chinensis* Baillon
- ⑤ *Trichosanthes kirilowii* Maximowicz var. *japonica* Kitamura

解答①

解説：

- ① ウイキョウ 黄色
- ② ムラサキ 白色
- ③ ハクモクレン 白色
- ④ チョウセンゴミシ 白色
- ⑤ キカラスウリ 白色

問 (40) 次の生薬の中で、他の4種と薬用部位が異なるものはどれか。

- ① TRIBULI FRUCTUS
- ② ARCTII FRUCTUS
- ③ ALPINIAE FRUCTUS
- ④ FOENICULI FRUCTUS
- ⑤ CORNI FRUCTUS

解答⑤

解説：

- ① TRIBULI FRUCTUS 蒺藜子 ハマビシ *Tribulus terrestris* Linné (Zygophyllaceae ハマビシ科)の果実
- ② ARCTII FRUCTUS 牛蒡子 ゴボウ *Arctium lappa* Linné (Compositae キク科)の果実
- ③ ALPINIAE FRUCTUS 益智 ヤクチ *Alpinia oxyphylla* Miquel (Zingiberaceae ショウガ科)の成熟果実
- ④ FOENICULI FRUCTUS 茴香 ウイキョウ *Foeniculum vulgare* Miller (Umbelliferae セリ科)の果実

⑤ CORNI FRUCTUS 山茱萸 サンシュユ *Cornus officinalis* Siebold et Zuccarini (Cornaceae ミズキ科) の偽果の果肉

問 (41) 次のうち、動物性の生薬はどれか

- ① MEL
- ② SAL MIRABILIS
- ③ OLEUM SESAMI
- ④ PORIA
- ⑤ AMYLUM ORYZAE

解答①

解説：

- ① MEL 蜂蜜
- ② SAL MIRABILIS 芒硝
- ③ OLEUM SESAMI ごま油
- ④ PORIA 茯苓
- ⑤ AMYLUM ORYZAE 米澱粉

問 (42) 次の生薬の中で、原植物が他の4者と科が異なるものはどれか。

- ① GUMMI ARABICUM
- ② SOPHORAE RADIX
- ③ CATALPAE FRUCTUS
- ④ SAPPAN LIGNUM
- ⑤ TRAGACANTHA

解答①

解説：

- ① GUMMI ARABICUM アラビアガム マメ科
- ② SOPHORAE RADIX クジン マメ科
- ③ CATALPAE FRUCTUS キササゲ ノウゼンカズラ科
- ④ SAPPAN LIGNUM ソボク マメ科
- ⑤ TRAGACANTHA トラガント マメ科

問 (43) 生薬・薬用植物に関する逸話で、誤っているものはどれか。

- ① 一説では、淫羊藿の語源は食した羊の精力が増したことによるといわれている。
- ② 烏薬には秦の徐福にまつわる伝説がある

- ③ ベラドンナには瞳孔を開くアトロピンが含まれ、クレオパトラはそのエキスを点眼したといわれている。
- ④ 徳川家の家紋として知られるフタバアオイはアオイ科ではなくウスバサイシンと同じウマノスズクサ科である。
- ⑤ スイレンは食用・薬用に留まらず、文化ともつながりが強く仏が座る蓮華座はその花を模したものである。

解答⑤

解説：

- ⑤ 「スイレン」ではなく、「ハス」

問 (44) 写真に示す植物の説明文として誤っているものはどれか。

- ① 薬用部位はとげである。
- ② 撮影時期は6月である。
- ③ 有効成分は熱に弱い。
- ④ アカネ科の植物である。
- ⑤ とげの数が節に1つか2つ（1対）かは個体によって異なる。



解答⑤

解説：写真はカギカズラ

生薬和名：釣藤鉤

Uncaria rhynchophylla Miquel, *U. sinensis* Haviland 又は *U. macrophylla* Wallich (Rubiaceae アカネ科) の通例、とげで、ときには湯通し又は蒸したものとげが対生しているものは双釣藤、とげが一個のものは単釣藤という。

とげは同一個体内で2個出る節と1個の節が交互につき、個体によって異なるわけではない。



問 (45) 写真に示す植物の説明文で正しいものはどれか。

- ① 紫ウコンや夏ウコンとも呼ばれる。
- ② 赤ウコンや秋ウコンとも呼ばれる。
- ③ 白ウコンや春ウコンとも呼ばれる。
- ④ 黒ウコンや秋ウコンとも呼ばれる。
- ⑤ 緑ウコンや夏ウコンとも呼ばれる。

解答①



解説：写真はガジュツ

問（46）写真はクチナシの栽培品種であるが、山梔子としては利用されない。理由として正しい記載はどれか。

- ① ゲニポシド含量が日局規格を満たさない。
- ② *Gardenia* 属植物ではない。
- ③ 有毒である。
- ④ 中国にはない植物（品種）である。
- ⑤ 結実しない。



解答⑤

解説：写真は八重クチナシ

八重クチナシは実がならない品種

問（47）古典で「薯蕷」と書かれた生薬は何か。

- ① DIOSCOREAE RHIZOMA
- ② ARISMATIS RHIZOMA
- ③ PAEONIAE RADIX
- ④ PINELLIAE TUBER
- ⑤ CORYDALIS TUBER

解答①

解説：

- ① DIOSCOREAE RHIZOMA サンヤク（ナガイモ）
- ② ARISMATIS RHIZOMA タクシャ
- ③ PAEONIAE RADIX シャクヤク
- ④ PINELLIAE TUBER ハンゲ
- ⑤ CORYDALIS TUBER エンゴサク

問（48）畑の雑草として嫌われている薬用植物はどれか。

- ① *Cyperus rotundus*
- ② *Paeonia lactiflora*
- ③ *Bupleurum falcatum*
- ④ *Carthamus tinctorius*
- ⑤ *Corydalis turtschaninovii*

解答①

解説：

- ① *Cyperus rotundus* ハマスゲ
- ② *Paeonia lactiflora* シヤクヤク
- ③ *Bupleurum falcatum* ミシマサイコ
- ④ *Carthamus tinctorius* ベニバナ
- ⑤ *Corydalis turtschaninovii* エンゴサク

問 (49) 通称「ワシントン条約」にて規制を受ける生薬はどれか。

- ① 甘草
- ② 知母
- ③ 肉蓯蓉
- ④ 麻黄
- ⑤ 木香

解答⑤

解説：

ワシントン条約で絶滅危惧植物に指定されている(附属書 I)。他、天麻、石斛など。尚、ワシントン条約の対象となり、輸出入が規制されるのは野生品で、生薬としては栽培品が輸入されている。

問 (50) 桔梗根の主な薬効はどれか。

- ① 消炎、鎮吐
- ② 鎮痙、鎮痛
- ③ 健胃、殺虫
- ④ 止血、抗菌
- ⑤ 鎮咳、去痰

解答⑤

問 (51) 附子は減毒のために高圧蒸気処理による修治が行われる。この修治で引き起こされる主な化学反応はどれか。

- ① アルキル化反応
- ② 酸化反応
- ③ 還元反応
- ④ 加水分解反応

⑤ 脱水反応

解答④

解説：

- ① アルキル化反応
- ② 酸化反応：カミツレ グアイオール→グアイアズレン
- ③ 還元反応
- ④ 加水分解反応：附子 アコニチンアルカロイド、地黄 配糖体の消失
- ⑤ 脱水反応：生姜 [6]-gingerol→[6]-shogaol

問 (52) 葛根 (PUERARIAE RADIX) に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 日本薬局方でプエラリンの含有量が規定されている。
- ② 原植物はマメ科に属する多年草である。
- ③ 日本薬局方には初版から「葛根」として収載されている。
- ④ 原植物は日本に野生しているが、国内自給率は低い。
- ⑤ 葛根湯の君薬で、鎮痙、発汗、解熱の効能がある。

解答③ 第6改正版より収載

問 (53) アリストロキア酸に関する次の記述のうち誤っているものはどれか。

- ① アリストロキア酸を含む植物の代表的な科はウマノスズクサ科である。
- ② アリストロキア酸は肝障害を起こすことが知られている。
- ③ 日本薬局方モクツウ（木通）はアリストロキア酸を含まないが、中国の関木通はアリストロキア酸を含む。
- ④ 日本薬局方ボウイ（防已）はアリストロキア酸を含まないが、中国の広防已はアリストロキア酸を含む。
- ⑤ 日本薬局方サイシン（細辛）の地下部はアリストロキア酸を含まないが、地上部はアリストロキア酸を含む。

解答②

解説：

肝障害ではなく腎障害を引き起こす。

アリストロキア酸を含むのは他に、青木香（馬兜鈴根 *Aristolochia contorta*）、南木香（雲南馬兜鈴 *Aristolochia yunnanensis*）がある。

問 (54) 生薬の原植物に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- ① オウレンとオウバクの前植物は共にミカン科に属し、主成分として苦味が強いインドールアルカロイドを含む。
- ② トウキとセンキュウの前植物は共にセリ科に属し、主成分としてリグナン類を含む。
- ③ ダイオウとセンナの原植物は共にマメ科に属し、主成分としてビアントロン類を含む。
- ④ ゲンチアナとリュウタンの原植物は共にリンドウ科に属し、主成分としてセコイリドイド配糖体を含む。
- ⑤ オンジとセネガの前植物は共にユリ科に属し、主成分としてステロイドサポニンを含む。

解答④

解説：

- ① オウレンはキンポウゲ科、オウバクはミカン科でともにインドールアルカロイドのベルベリンを主成分とする。
- ② とともにセリ科で主成分はフタリド類
- ③ ダイオウはタデ科、センナはマメ科で主成分はビアントロン類
- ⑤ とともにヒメハギ科で、主成分はトリテルペンサポニンである。

問 (55) 日局に「本品は通例、切断したもので、外面は暗褐色～暗赤褐色で縦じわがあり、切面は褐色～淡黄褐色である。周皮が脱落したものは外面が褐色～淡黄褐色で繊維性である。横切面は、皮部と木部の境界がほぼ明らかで、放射状の構造を呈し、しばしば放射状に裂け目がある。本品は香ばしいにおいがあり、味は甘く、後にやや苦い。」と性状記載された生薬は何か。

- ① GLYCYRRHIZAE RADEX PRAEPARATA
- ② GLYCYRRHIZAE RADIX PULVERATA
- ③ PAEONIAE RADIX
- ④ PAEONIAE RADIX PULVERATA
- ⑤ ATRACTYLODIS RHIZOMA PULVERATUM

解答①

解説：シャカンゾウの性状記載

- ②カンゾウ末
- ③シャクヤク
- ④シャクヤク末
- ⑤ビャクジュツ末

問 (56) 日局に「本品はやや扁圧された球形～不整形を呈し、径 0.7～2.5cm、高さ 0.7～1.5cm である。外面は白色～灰白黄色で、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。質は充実する。切面は白色、粉性である。本品はほとんどにおいがなく、味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。」と性状記載された生薬は何か。

- ① 沢瀉
- ② 半夏
- ③ 附子
- ④ 延胡索
- ⑤ 貝母

解答②

解説：ハンゲの性状記載

問（57）写真に示す根茎の原植物は何か。

- ① ショウガ
- ② ハナスゲ
- ③ ハナトリカブト
- ④ ハシリドコロ
- ⑤ クサスギカズラ



解答②

解説：

生薬の知母はハナスゲの根茎を乾燥したものです。その時に、根茎についているひげ根をつけたまま調製したものを“毛知母”といい、ひげ根を除いたものを“光知母”という。

問（58）写真に示す薬用植物の収穫時期はいつか。

- ① 春
- ② 土用の頃
- ③ 夏
- ④ 秋
- ⑤ 冬



解答④

解説：写真はゴシュユ（ミカン科）

日本では11月ごろに未熟果を採取し、陰干する。この時、急速に乾燥するのが望ましい。古くて（一年以上経過）粒が小さく黒色を呈して、辛味が強いものが良品とされる。

中薬大辞典：8～10月。果実が緑褐色になり、心皮がまだ分かれていない時に摘み取る

問 (59) 写真に示す薬用植物はどの生薬の原植物か。

- ① 鬱金
- ② 附子
- ③ 益智
- ④ 小豆蔻
- ⑤ 乾姜

解答⑤

解説：ショウガの花



問 (60) 写真に示す薬用植物はどの生薬の原植物か。

- ① SAUSSUREAE RADIX
- ② STRYCHNI SEMEN
- ③ ACONITI TUBER
- ④ ALPINIAE OFFICINARI RHIZOMA
- ⑤ SCOPOLIAE RHIZOMA

解答③

解説：トリカブトの果実

- ① モッコウ
- ② ホミカ
- ④ リョウキョウ
- ⑤ ロートコン



問 (61) 写真に示す薬用植物は何か。

- ① *Dolichos lablab* L.
- ② *Polygonum multiflorum* Thunb.
- ③ *Polygala tenuifolia* Wild.
- ④ *Trichosanthes kirilowii* Maxim.
- ⑤ *Clematis chinensis* Osbeck

解答⑤

解説：サキシマボタンヅルの果実

- ① フジマメ
- ② ツルドクダミ
- ③ イトヒメハギ



- ④キカラスウリ
- ⑤サキシマボタンヅル

問 (62) 確認試験にドラーゲンドルフ試薬を利用する生薬は何れか。

- ① ショウキョウ
- ② サイシン
- ③ ゴボウシ
- ④ シャクヤク
- ⑤ コウボク

解答⑤

解説：ドラーゲンドルフは、アルカロイドや第三級アミンを検出するために用いられる試薬である。厚朴のマグノクラリンを確認

TLCでは他に、ウヤク、ジコッピ、シンイ、バイモ、ベラドンナコン、ロートコン
沈殿や濾紙上での反応：エンゴサク、クジン、ゴシュユ、センコツ、

問 (63) 次の生薬と日局確認指標成分の組み合わせで、間違っているものはどれか。

- ① 厚朴／マグノロール
- ② 芍薬／ペオニフロリン
- ③ 葛根／プエラリン
- ④ 黄耆／アストラガロシドIV
- ⑤ 桃仁／アミグダリン

解答①

解説：

- ① 厚朴の確認試験ではマグノクラリンを確認(標準品無し)。マグノロールは定量成分で誤り。
- ② ～⑤は問中のそれぞれの成分が確認指標成分として規定されている。

問 (64) 日局「キクカ」の1原植物であるシマカンギクに関する記載のうち、正しいものはどれか。

- ① 5～7月の花の満開期に採集して乾燥する。
- ② 6～8月の開花期の香りの強い時期に採集して乾燥する。
- ③ 8～10月の開花期に全草を採集して乾燥する。
- ④ 10月頃の花の満開期に中国の栽培地で採集して乾燥する。
- ⑤ 10月頃の花の満開期に野生品を採集して乾燥する。

解答⑤

解説：

10月下旬の花の満開期に採集。

主にシマカンギクは野生品、キクは栽培品を用いる。

問 (65) 次の薬用植物で、日本でも薬用に栽培されているものはどれか。

- ① *Cyperus rotundus*
- ② *Trichosanthes kirilowii*
- ③ *Pueraria lobata*
- ④ *Cnidium officinale*
- ⑤ *Jateorhiza columba*

解答④

解説：センキュウ以外は生産0

- ① *Cyperus rotundus* ハマスゲ
- ② *Trichosanthes kirilowii* キカラスウリ
- ③ *Pueraria lobata* クズ
- ④ *Cnidium officinale* センキュウ
- ⑤ *Jateorhiza columba* コロンボ

問 (66) 次の生薬の中で、同じ植物に由来し、修治法（加工調整法）の異なる組み合わせはどれか。

- ① クコシとジコッピ
- ② タイソウとサンソウニン
- ③ ショウキョウとカンキョウ
- ④ トウニンとキョウニン
- ⑤ ニンジンとチクセツニンジン

解答③

解説：

- ① クコシとジコッピ 薬用部位：果実・根皮
- ② タイソウとサンソウニン 基原植物が異なる
- ③ ショウキョウとカンキョウ
- ④ トウニンとキョウニン 基原植物が異なる
- ⑤ ニンジンとチクセツニンジン 基原植物が異なる

解説：

「後下」はある生薬のみを煎じ終わる5～10分前に加える方法。紫蘇、薄荷、釣藤鉤など、揮散しやすい成分や熱に不安定な成分が入った処方では指示される。また、附子が入った処方では、1時間以上煎じることが指示される場合もある。

問（70）次の生薬のうち、六陳に含まれるものはどれか。

- ① 茯苓
- ② 麻黄
- ③ 附子
- ④ 大棗
- ⑤ 地黄

解答②

解説：

六陳：麻黄、陳皮、半夏、枳実、呉茱萸、狼毒

八新：蘇葉、薄荷、菊花、桃花、赤小豆、塊花、沢蘭、款冬花

問（71）次の生薬の中で、日本産の流通がないものはどれか。

- ① 紅花
- ② 川芎
- ③ 蘇葉
- ④ 厚朴
- ⑤ 山椒

解答①

解説：

日本における原料生薬の使用量に関する調査報告（3）

<https://www.nikkankyo.org/serv/pdf/usage-survey2023.pdf>

問（72）長期投与により腸間膜静脈硬化症を引き起こすとされる生薬はどれか。

- ① Rhubarb
- ② Scutellaria Root
- ③ Pinellia Tuber
- ④ Gardenia Fruit
- ⑤ Ephedra Herb

解答④

解説：

- ① Rhubarb ダイオウ 大腸メラノーシス 腸管の細胞が死滅し、それをマクロファージが食べることで、この色素が合成され沈着する
- ② Scutellaria Root オウゴン 間質性肺炎
- ③ Pinellia Tuber ハンゲ
- ④ Gardenia Fruit サンシシ
サンシシ中のゲニポシドが大腸の腸内細菌によって加水分解され、生成されたゲニピンが大腸から吸収されて腸間膜静脈を通過して肝臓に到達する間に、アミノ酸やたんぱく質と反応し、青色色素を形成するとともに、腸間膜静脈壁の線維性肥厚・石灰化を引き起こし、血流を鬱滞させ、腸管壁の浮腫、線維化、石灰化、腸管狭窄を起こすと考えられている。
- ⑤ Ephedra Herb マオウ

問 (73) 次の漢方処方の中で、ハッカが配合される処方はどれか。

- ① 黄連解毒湯
- ② 加味逍遥散
- ③ 桂枝茯苓丸
- ④ 桃核承気湯
- ⑤ 当帰芍薬散

解答②

解説：

- ① 黄連解毒湯 黄連、黄柏、黄芩、山梔子
- ② 加味逍遥散 当帰、芍薬、白朮、茯苓、柴胡、牡丹皮、山梔子、甘草、生姜、薄荷
- ③ 桂枝茯苓丸 桂枝、茯苓、桃仁、牡丹皮、芍薬
- ④ 桃核承気湯 桃仁、桂皮、大黄、甘草、芒硝
- ⑤ 当帰芍薬散 当帰、芍薬、茯苓、沢瀉、川芎、白朮

問 (74) 次の漢方処方の中で、カンゾウが配合されない処方はどれか。

- ① 四逆散
- ② 小柴胡湯
- ③ 大柴胡湯
- ④ 柴胡桂枝湯
- ⑤ 柴胡桂枝乾姜湯

解答③

解説：

- ① 四逆散 柴胡、甘草、乾姜、附子
- ② 小柴胡湯 柴胡、黄芩、半夏、人参、大棗、甘草、生姜
- ③ 大柴胡湯 柴胡、半夏、生姜、黄芩、芍薬、大棗、枳実、大黄
- ④ 柴胡桂枝湯 柴胡、半夏、黄芩、甘草、桂皮、芍薬、大棗、人参、生姜
- ⑤ 柴胡桂枝乾姜湯 柴胡、括楼根、黄芩、甘草、桂皮、牡蛎、乾姜

問 (75) 次のうち、八味地黄丸に配合されない生薬はどれか。

- ① GLYCYRRHIZAE RADIX
- ② MOUTAN CORTEX
- ③ CORNI FRUCTUS
- ④ ALISMATIS TUBER
- ⑤ PORIA PULVERATUM

解答①

解説：

地黄、山茱萸、山薬、沢瀉、茯苓、牡丹皮、桂枝、附子

- ① GLYCYRRHIZAE RADIX カンゾウ
- ② MOUTAN CORTEX ボタンピ
- ③ CORNI FRUCTUS サンシュユ
- ④ ALISMATIS TUBER タクシャ
- ⑤ PORIA PULVERATUM ブクリョウ

問 (76) 八味地黄丸エキス顆粒の使用法及び使用上の注意に関する記述のうち、間違いはどれか。

- ① 本剤には附子が含まれているので、小児等には慎重に使用する。
- ② 高血圧の患者に使用してはならない。
- ③ 身体を温める作用があるので、冷えのある患者に使用する。
- ④ 流早産の危険性があるので、妊婦には使用しないことが望ましい。
- ⑤ 主な副作用は、胃部不快感、食欲不振、腹痛などの消化器症状である。

解答②

解説：

八味地黄丸の適応として、下肢痛、腰痛、浮腫、疲労倦怠感、冷感、高血圧の随伴症状などの記載がみられる。

問 (77) 次の漢方処方のうち、傷寒論に記載がない処方はどれか。

- ① 小柴胡湯

- ② 芍薬甘草湯
- ③ 補中益気湯
- ④ 半夏瀉心湯
- ⑤ 葛根湯

解答③

解説：

- ③ 補中益気湯 内外傷弁惑論

問 (78) 次の古典籍のうち、陰陽五行説に則って記載されているものはどれか。

- ① 神農本草経
- ② 傷寒雑病論
- ③ 薬徴
- ④ 黄帝内经
- ⑤ 本草綱目

解答④

問 (79) 伝統医薬学書に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- ① 日本独自の漢方医学としては後世派や古方派などが知られている。
- ② 『傷寒論』は今から約 1800 年前に成立した中国の医書である。
- ③ 『神農本草経』では毒性が強く、病を治すのに優れた生薬を上薬（上品）に分類している。
- ④ エジプトでつくられた『エーベルスパピルス』には、アヘン、ケイヒなど多くの生薬が記載されている。
- ⑤ 『マテリアメディカ』はローマ時代にディオスコリデス (Dioscorides) により著され、今日、『ギリシャ本草』と称されている。

解答③

解説：

毒性が強く、病を治すのに優れた生薬は下薬

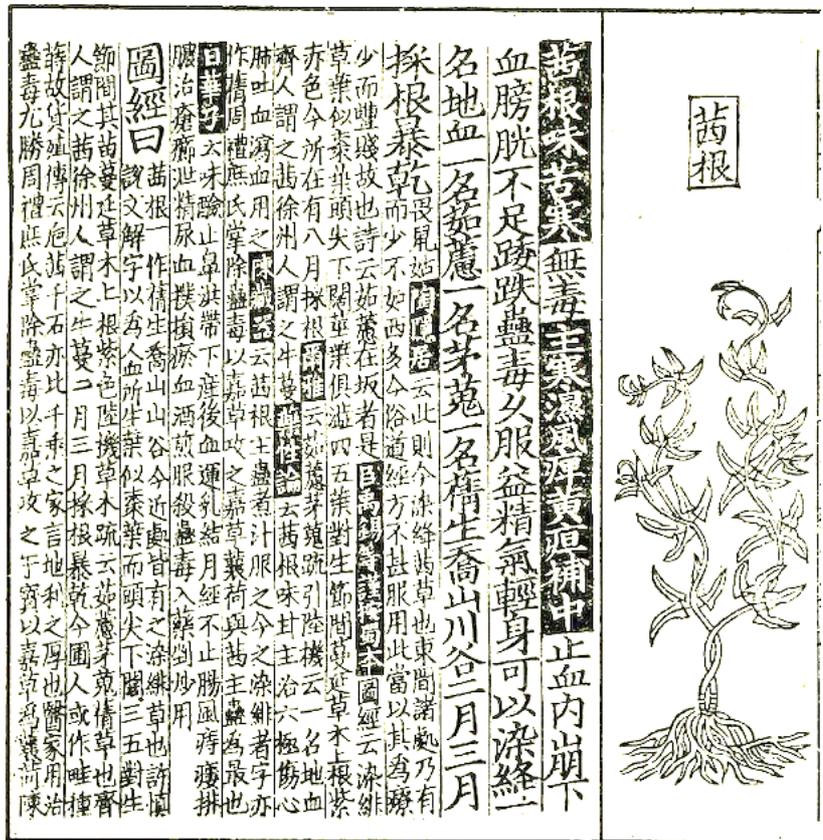
毒性が弱く、毎日服用しても良いものが上薬

神農本草経は、中国最古の薬物学（本草学）書であり、個々の生薬の薬効について述べている。中国古代の伝説の帝王で農耕・医薬・商業の神「神農」にその名を託した。一年の日数に合わせた 365 種の薬物を上品（じょうほん、120 種）、中品（ちゅうほん、120 種）、下品（げほん、125 種）と薬効別に分類している。（上薬、中薬、下薬ともいう）上品は養命薬（生命を養う目的の薬）で、無毒で長期服用が可能。身体を軽くし、元気を益し、不老長寿の作用がある。中品は養性薬（体力を養う目的の薬）で、使い方次第では毒にもなるので注意が必要。病気を予防し、虚弱な身体

を強くする。下品は治病薬（治療薬）で、毒性が強いものが多いので長期にわたる服用は避けたほうがよい。病気を治すために用いる。 ○ 公益社団法人日本薬学会

問 (80) 『政和本草』のコピーを示した。正しい解説はどれか。

- ① 陶弘景は『図経本草』を引用して意見を述べている。
- ② 茜根が生薬として初収録されたのは『傷寒論』である。
- ③ 茜根が生薬として初収録されたのは唐の時代である。
- ④ 茜根が生薬として初収録されたのは宋の時代である。
- ⑤ 付図は『図経本草』からの引用である。



解答⑤

解説：

- ① 『神農本草經』陶弘景（492～500年頃）、図経本草(1062年)蘇頌による編纂
- ②③④初収録は『神農本草』（1～2世紀）
- ⑤大観本草、政和本草の付図は『図経本草』からである